巻頭言

伝え継ぐこと（伝承）について

職業能力開発総合大学校　名誉教授　　**渡邉　信公**

人生 100 年時代の到来といわれている．様々な動物の寿命を考えると，この 100 年が長いのか短いのか一般に健康寿命といわれる 70 数年を充実した人生にすることが重要だと考える．私も還暦を過ぎ，曲がりなりにも約 40 年余りを職業指導・教育の現場に携わってきた．その間，多くの先輩諸氏，同僚から知識・技術・技能などを伝授してもらうとともに，自分なりに工夫して後輩諸氏にどのように伝えるかを模索してきた．私の約半世紀を振り返り，様々なところで経験し考えてきた「伝え継ぐこと（伝承）」について雑感を述べる．

地球誕生から約 46 億年，様々な生き物の誕生・衰退そして絶滅がある中で，今地球の繁栄と滅亡のカギを握っているのは我々人類である．人類の誕生と活躍は，地球誕生から今までを 1 年に例えるとわずか 23 分間である．恐竜や多くの動物はもっと長い期間地球を支配してきたが，自然の威力により衰退や滅亡を繰り返している．今や人類が自らの力で自然を破壊しようとしているのは，何とも複雑な気持ちである．

人類が他の動物と違い短期間で今のように繁栄できたのは，火（エネルギー）や道具使い，道具や設備の改良・工夫を行い，その知識や技術・技能を伝え継いできたこと（伝承）だと考える．このことで他の動物とは違った社会を構築でき，様々な文明や文化を育て繁栄してきたと思う．もう一つ他の動物と違う点に，言葉を持ちそれを表す文字を持っていることも挙げられる．文字は約 5000 年前の楔形文字から始まり，今では様々な言語を用いて世界中の人々が意思疎通できる時代である．なかでも，日本語は他の言語にはない細やかな表現があり，言葉の伝達のみならず精神的な伝達もあるように考える．皆さんが良く知っている，方丈記の「ゆく川の流れは絶えずして，しかももとの水にあらず．よどみに浮かぶうたかたは，・・・」の一節では，伝え継ぐこと（伝承）を考えて読むと，一粒の泡（人生 100 年）が学び経験した知識や技能・技術を，脈々と次の世代に伝え継ぎ発展させることの重要性が人類の繁栄に関わっていると文脈から感じ取ることができる．

つい最近までは技は盗めと言われ，見て覚え経験や鍛錬で習得し，秘伝として口伝や特定の人物のみへの伝承であった．また，山本五十六氏の「やってみせ，言って聞かせてさせてみて，誉めてやらねば人は動かじ，・・・」という名言にも技能教育や伝承の難しさが表れている．私自身，自分の半生で「次の世代にうまく伝えることができたのだろうか」と自問をしている．

現在の「伝え継ぐこと（伝承）」を考えると，様々な手法やツールがあるように思う．近年の電子・情報技術の進展で，技能や技術の分析やデータ化，機械化，ロボット化などが進み，仮想空間・アバターまで作り出せるようになった．今の技能伝承の分野は，電子・情報技術を最大限に利用しビックデータと AI 技術で，一定水準の伝承が行え益々その技法が多様化し進展している．しかし，依然として最後の判断は人の手によるものも多くあり，これは経験とそれにより習得した言葉や文字では表せない「勘やコツ」が複合したもので，多くの名匠・名工が「まだまだ，一生勉強です.」と言うように，技の追求と磨きは永遠に続くものと考える．

一方で，これからの知識・技術・技能の伝承を担う職業能力開発の分野では，確立された一定水準の伝承に加えて，さらなるビックデータの蓄積と分析，AI 学習システムの改良と進展，映像技術の発展と仮想空間の利用が進み，「伝えられ・覚え・経験し・改良・発展させ・伝える」ことに一層の充実が期待される．

今後，最大の課題である熟練技能者が失敗と成功の経験で得た言葉や文字，数式で表せない技の極み（勘やコツ）を技能科学の目で研究し，「伝え継ぐこと（伝承）」の進展に生かされることを期待している．